



日本動物学会第71回大会を終えて

社団法人 日本動物学会第71回大会
大会委員長 浅島 誠(東京大学)

9月21日～23日の3日間、東大の駒場キャンパスにおいて15年ぶりのしかも20世紀最後の動物学会が開催された。幸いにも天候にも比較的恵まれ、1295名の参加者があった。今回はいくつかの試みが新規に計画されたり、継続されたりした。その第1はインターネットによる予稿集の申込と従来の郵送による申込の2本立てにしたことである。申し込みの演題数723題のうち約8割がインターネットでの申込で、当初、準備委員会が予想(期待?)した7割を越えたことはかなりインターネットが各研究室に普及していることを感じた。これには準備委員会の上村会員が大きな役割を担って下さった。会員による発表では口頭発表とポスター発表の両方を併用して行ったが、両方の発表形式について各々の良さを味わえたのではなかったかと思う。口頭発表では全て OHP とし、各人の発表と質問に比較的時間を多くすることができたし、ポスター発表では広い会場(第二体育館)も熱気で溢れていた。第2は2つの展示室を設けたことである。第1の展示室ではレーベンフックの顕微鏡から、江戸時代の木製顕微鏡、団ジーン先生が先体反応をみつけた位相差顕微鏡、福田宗一先生のカイコのアラタ体の発見までの資料、ダーウィンの初版本、本学会発刊の全ての学術誌(動物学会誌、動物学彙報 Zool. Science、予稿集など)、モースの資料などが展示された。これは動物学会資料保存委員会の八杉貞雄委員長(都立大学)と大西英爾名大名名誉教授、そして事務局の永井さん、東大動物学教室や三崎臨海実験所、浜野顕微鏡店などの多くの方々の御協力をいただいた。また、第2展示室では毛利秀雄先生(現基生研所長)と井上 尚先生(蚕昆研)の御協力で日本全国の蝶とその解説、そして世界の最大大型昆虫標本が出品され、その美しさと多様性が見られた。展示室には時々、身動きできないほどの人が見に来て下さった。正直言って、準備委員会としては企画はしたも

の、これだけの世界的に見ても一級の展示物をどのように安全に運搬し、3日間の大会中保管するかが大きな悩みであった。その為、夜警のため泊まり込みも行ったが、非常に多くの人達に見ていただいたのでその甲斐もあった。第3は大会本部企画のシンポジウムとそれと並行して行われた3つのシンポジウムが盛会であったことである。準備委員会としてはあまり多くのシンポジウムを並行するよりは4つに絞ることにした。大会期間中のシンポジウムの申し込は他にも良い企画提案が数多くあったが、分野間のバランスや内容などを考慮して、4つにさせていただいた。第4は中・高校生によるポスター発表である。今回は1都6県から30題もの発表があり、非常に内容の良いものが沢山あった。遠くは山口県や長野県からも発表が有り、若くて次世代の学生たちの自由で闊達な発表は好評であった。第5は第3日目の午後に行われた松田会員を中心として企画された公開シンポジウムである。前半は「社会と動物学—21世紀における社会と基礎科学の関わり」、第2は「21世紀における理科教育の課題」である。この2つとも盛会で会場は満員となったし、又、第2部では予定の時間を大幅に超過して夜8時45分まで熱心な発表と討論が続いた。動物学会が社会に対して開かれたものになってきて、今後の生物学の発展に大きく寄与できる道の一つが見えたようにも思われる。

第6は今回の総会は日本動物学会が社団法人となって初めてのものであり、代議員制が取り入れられた。その為か、私が経験した総会の中では最も多くの会員が出席された。星会長は代議員制の改革と健全な学会運営によって会員の利益と権利を守られて今後も努力したいという星会長の主旨はよく理解された。この3日間を私なりにふり返ってみると「(社)日本動物学会」に新しい波—それは若い人が再び増え始めたことと研究材料の多様化が見られたこと—が起こってきていると感じたことである。それゆえ平均してどの会場も多くの人達が入っており、活発に討論していたと感じた。総会及び受賞者講演、感謝状贈呈式、そしてそれに続いた懇親会も例年より多くの人達が参加して下さったので、全体としてのまとまりと盛り上がりを感じた。参加いただいた多くの会員に深く感謝申し上げたい。ただ全てがうまく行ったわけではなく、予稿集が多くの会員の皆様方のお手元に届くのが遅くなったことは、その原因が宅配便の誤配(他県に運ばれ、倉庫にそのまま保管されていた)によるが、ご迷惑をおかけしたことに対して準備委員会とし

でも深くお詫びしなければならない。最後になりましたが、ともかく無事に大会を終えることができましたことは会員の皆様方の御協力と長い間、この大会のためお骨折り下さった多くの大会準備委員会の先生方にここに厚くお礼を申し上げ、特に若い先生方が多方面で全面的にこの大会のために協力と尽力下さったことに深く感謝したい。

社団法人 日本動物学会第71回大会雑記

飯田 弘（九州大学大学院農学研究院）

今回、東京大学駒場キャンパスでおこなわれた日本動物学会第71回大会に参加させて頂き、印象記の依頼を受けましたので、個人的な感想ではありますが、思いついたことを書かせていただきます。

まず全体的な印象ですが、今回の学会は非常に内容が充実したプログラムが組まれており、とても楽しい学会でした。一般研究発表に加えて、シンポジウム、関連集会、生物学資料展示、公開シンポジウム、そして高校生のポスター発表など、どれをとっても興味深い内容でした。私個人は、シンポジウムは「発生の時間制御と時計生物学」、関連集会は「精分子学」談話会に参加させていただきました。どちらもレベルの高い研究内容が紹介されており、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。オーガナイザーの先生方に深く感謝する次第です。さらに、生物学資料展示では美しい様々な蝶や巨大なゴキブリに驚かされ、また団ジーン先生の顕微鏡や福田先生の昆虫ホルモンの研究業績などを興味深く拝見させていただきました。

第2の印象は、ポスター討論が大変活況であるということでした。会場の体育館は人であふれており、その熱気に汗ばむほどでした。ポスターの前で、一対一の活発な討論が展開されている様子を伺っていると、ポスター形式の発表の良さが理解できます。海外の学会では、ポスター形式の発表が主流になっているものもあり、また学会員同士の交流の利点さを考えると、今後もこの形式の発表がますます盛んになっていくのではないかと思います。

3点目は、総会・受賞者講演および懇親会などを含めて、若い学会員の方々がこれらの集いに積極的の参加されていることでした。学会の活力は若い研究者のエネルギーに支えられているものだと思います。今後も若い人

達がのびのびと参加できるような学会の雰囲気大切にすることが重要だと思います。また、大学院生など若手研究者による生物学談話会も企画されていて、大変良いことだと思いました。このような企画は是非今後も継続していただきたいと思います。

私は動物学会に参加させていただくのは今回で3回目です。以前は、医学系の学会に参加することが多かったため、研究対象動物がほとんど哺乳類でした。そのため、動物学会に初めて参加したときには、研究対象動物の多様さに目が回る思いでした。3回目となるとさすがに慣れてきて、多様な生物を対象とする学会のおもしろさを実感できるようになりました。今回の学会を一言で表現すれば、とても「楽しい学会」であったと思います。学会準備委員会ならびに学会関係者の皆様方のご努力によるものだと思います、あらためて御礼申し上げたいと存じます。

71回大会 中・高校生ポスター発表

茨城県沖から沈木に付着して採集された腹足類

神奈川県立水戸第一高等学校：芳賀拓真，佐藤 隆（教諭），豊崎永英（教諭）

骨組織の観察および測定

神奈川県麻布大学付属淵野辺高等学校：長谷川太一，佐藤いずみ

ウグイの鱗による年齢測定

神奈川県麻布大学付属淵野辺高等学校：宮川るり子，寺尾由美子

マウスにおけるストレスと自己治癒力の促進について

神奈川県立神奈川総合高等学校：野尻あゆ美，小田切 秀穂（教諭），高橋寿夫（教諭）

大腸菌の DNA 損傷の修復機構について

神奈川県立神奈川総合高等学校：小林久美子，小田切 秀穂（教諭），高橋寿夫（教諭）

プランナリアの再生実験について

神奈川県立川和高等学校：篠塚康智，石岡伸晃，加藤 恒，佐藤秀明，柳下雅則，門田寿子（教諭），廣田要三（教諭）

鎌倉市におけるタイワンリスの生態の現状（現況）について

神奈川県立湘南高等学校：清島千鶴江，内藤 薫，二村友彬，有馬麻優子，岡部理恵，八尋みどり，美ノ谷憲久（教諭），高嶋紀子（神奈川県立藤沢高等学校）

教諭)

アメリカザリガニ (*Cambarus clarkii*) の行動に対する飼育環境の影響について

神奈川県立松陽高等学校: 大房 純, 高橋 雄, 藤永貴浩, 石橋裕子 (教諭)

微生物による川の水質判定

神奈川県立藤沢翔陵高等学校: 番場裕之, 森 朗, 川田晃洋, 岡田誠治, 菊池純矢, 青野夏樹, 荒井敬介, 横山英貴 (教諭), 小松原 崇 (教諭)

ヒガシカワトンボ雄二型の遺伝的背景と繁殖戦略

神奈川県立弥栄東高等学校: 横山浩一, 西村健一郎, 田口仁志 (神奈川県立上溝南高等学校), 坂本裕輔, 国吉眞以, 田口正男 (教諭)

なぜジョロウグモは平地のクモか

神奈川県立山北高等学校: 穂坂正典, 矢野 晃, 夏苅卓実, 杉田 昂, 池田博明 (教諭: 神奈川県立足柄高等学校)

オオタカの食性に関する研究

埼玉県浦和学院高等学校: 落合 聡, 巢瀬 司 (教諭)

環境ホルモン汚染研究の試み - 海産巻貝イボニシのインボセックス化 -

埼玉県立川越女子高等学校: 安達澄子, 武田紘子, 篠原 恵実子, 赤羽弘雄 (教諭)

固定化細菌を利用した水質浄化装置の制作

埼玉県立久喜工業高等学校: 町田則文, 中野博幸, 堀 裕太, 長浜清司, 野中拓也, 菅野 彰 (教諭)

雄メダカに対する内分泌攪乱物質の影響 第2報~水環境への影響~

埼玉県立深谷第一高等学校: 熊谷 翠, 熊谷光敏, 波多野 崇, 服部明正 (教諭)

トウキョウサンショウウオの地理的変異はあるか

埼玉県立松山高等学校: 峯岸利充, 根本真孝, 櫻井朗, 根岸義典, 中村純一, 平田孝昭 (教諭), 石川好夫 (教諭)

館山市沼地区におけるヒカリモの研究

千葉県県立安房高等学校: 山口晴代, 小川真一, 寺島大樹, 青木清隆 (教諭)

ミドリシジミの翅の輝きについて

千葉県立流山東高等学校: 内藤友輔, 増田裕一, 山田 誠, 植竹洸介, 林野慎哉, 桑村祐次, 小林弘樹, 長崎貴紀, 多田憲平, 中島哲人 (教諭)

植物の生長に対する重金属汚染の影響

東京都立国際高等学校: 1999年度第3学年12名, 2000年度第3学年10名

環境科学 (生物 IA) で取り組む「学校の省エネ実験」 - 行動科学定量化への試みとして -

東京都立国際高等学校: 1999年度3年16名, 2年25名

生命について考える - 生ブノートより -

東京都立国際高等学校: 1999年度第3学年13名

目黒川におけるアブラコウモリの出現時刻と環境要因について

東京都駒場東邦中・高等学校: 堤 裕史 (教諭), 三木謙二郎, 伊藤 慧

こどもの国 (横浜) のヤゴの個体数と体長の季節変化

東京都駒場東邦中・高等学校: 堤 裕史 (教諭), 四熊尚方, 大林 祝, 高木 俊, 真鍋 拓, 松山 亮太, 三村真生

伊豆大島三原山の溶岩上の植生

東京都立新宿高校生物部: 降幡高志 (教諭), 松本勝洋 (教諭), 大川恭代, 堀江沙知, 中村美帆子, 前田さやか, 高見沢光一, 名取 慶, 羽山進一

庭の虫

東京都世田谷学園中学校: 田中 光

伊豆大島溶岩流上の先駆的生物

東京都立町田高校: 岩園 将, 安諸茉莉子, 東 梨花, 海老原香里, 佐藤彩香, 垣添奈月, 斉郷美保子 (OG), 稲葉和也 (OB), 市石 博 (教諭)

「高校生がつくった生物カルタ」

東京都立三田高校: 渡辺早織, 宮本裕美子, 松原 織, 川上弥登里, 大久保綾乃他)・白土綾子 (教諭) ショウジョウトンボのオスはどのように同種のオスを識別しているのか

東京都立三鷹高校: 高橋佑磨

プールの異常 (奇形) おたまじゃくしについて

長野県売木中学校: 熊谷 聖秀 (教諭)

山口県内のメダカとカダヤシの分布と両種の種間関係

山口県立厚狭高等学校: 児玉伊智郎 (教諭), 猶朋美, 関上恭平, 秦 慧利子, 長井鮎美, 大田政太郎, 篠田一樹, 山口 翔

プラザ Z

江上基金による海外渡航費助成の報告

北海道大学 理学研究科 定本 久世

この度、私は江上学術表彰による若手研究者国際会議出席費用補助金の援助を受け、イギリス南部のブライトンで行われたヨーロッパ神経科学会2000年大会に参加させていただきました。この学会は、ヨーロッパ各地からはもちろん世界各国からの参加者も多く、この分野では最も大きな大会の一つです。神経科学という内容で、しかもグリーンピースお膝元のイギリスで行われるためか、「あなたを攻撃する人もいますので（直訳）」会場外では名札を隠すようにとの注意があり、学会を取り巻く雰囲気の違いも見られました。5日間の会期中、さまざまな魅力的な発表やシンポジウムが行われており、予稿集をリュックに入れて2つの会場を迷いながら、あっという間に時間は過ぎていきました。

私は神経伝達物質である一酸化窒素（NO）が、淡水産マキガイ（ヨーロッパモノアラガイ）の中枢神経系で、そしゃく行動に及ぼす影響について発表しました。NOは気体の性質を持ち、他の神経伝達物質とは違って、三次元的に拡散するという伝達形式を取ります。本研究では、特定の行動に伴って中枢神経系で産生されるNOの検出に初めて成功し、また産生されたNOが神経回路にどのように働きかけるかについて解析を行い、「そしゃく行動の抑制」に働くという可能性について発表しました。

今回、私達と同じくモノアラガイの中枢神経系を研究しているグループが、予稿の発表以降にどのような結果を出しているのか非常に気になっていました。そんな時、自分のポスター発表直前にあったシンポジウムで、NOの働きに関して自分達の結果と逆の発表があり、一瞬、驚かされました。しかし、聞いてみると、私達とは全く異なる標本での実験系での話であるということがわかりました。後にお会いできたその発表者も、末梢の感覚神経細胞から行動を起こす筋肉まで、どこの部位でNOがどのように働いているかは分からない、とおっしゃっていました。NO合成酵素は多様な器官に存在し、NOを受け取る細胞も様々なので、ある行動を起こすまでの一連の経路の中であっても、NOが産生される部位によっては全く異なる効果を示すということになるのでしょう。

その後、ブライトン郊外にあるその研究室を訪問させて頂き、お互いの実験について話す機会を持ってました。

NO以外のテーマでも私達の競争相手である彼らとの話は、自分達と全く異なるアプローチを選んでいるために非常に興味深く、強い刺激を受けることができました。論文を読んだことがあっても、顔を知らなかった有名な研究者達と話せたことで、彼らの研究の基盤になる考え方に少しでも触れることができ、自分の中では非常に大きな経験になったと思っています。とにかくディスカッションも積極的で、ある意味「強引」という表現が合うくらい研究に対して欲がはっきりしているというのが正直な感想です。学会で聞いた発表も含め、神経科学という分野の競争の激しさと、おもしろさを改めて感じることができました。

また、一口に神経科学と言っても実験動物もいろいろありますが、「やはりみんな興味があることは同じだ」ということが、強く印象に残りました。現在、どの動物種であっても細胞内での情報伝達系のクロストーク、つまり情報伝達経路の相互作用による生理反応の変化に関心が高まっていることが多数の発表やシンポジウムで、はっきり傾向として見られたからです。今後の方向性として、NO経路を含むさまざまな情報伝達経路が引き起こす、神経細胞内での長期的な変化も注目できれば、と考えていたため、非常に有意義な知識を得ることが出来ました。

学会を通してのもう一つの大きな印象は、女性の参加が多いということです。国内の学会は圧倒的に女性が少ないのですが、この学会では私にはむしろ女性の研究者の方が元気に見えました。若い方が多かったせいもあるでしょうが、ベビーカーを押した女性がポスター会場を普通に見ている姿は、私には初めてで新鮮な光景だったのです。

ところで、学会とは裏腹に開催地のブライトンは「さびしい」イメージだけが残りました。イギリス有数のリゾート地らしいのですが、もう夏だということに全く寒く、学会会場のすぐ近くにある海は文字通り鉛色、一日中どんよりしているのです。発表後に、海に張り出した栈橋の上で気張ってビールを飲んでみましたが、冷たい風の中あっという間に体が冷え切ってしまいました。最終日には、一緒に行った先生と次の実験のことを話しながら、海辺の露店で買った暖かい紅茶を飲みました。しかしこれが意外においしく、このリゾート地では暖かい紅茶と海のシックな組み合わせが一番正しかったようです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて

くださった江上学術基金の関係者および動物学会の方々に、深く感謝申し上げます。

本部より

(社)日本動物学会安増基金設立のお知らせ

(社)日本動物学会

先般開催の平成12年度第2回総会において(社)日本動物学会安増基金が設立されました。これは故安増郁夫会員の御遺族からの寄付を基に設立された基金です。海外で開催される学術会議で研究成果を公表する大学院在籍中の学生で本学会会員を対象とし、渡航のための航空運賃を補助するものです。なお、研究分野は原則として海産動物の生物学の研究とすることになっております。平成12年度に限り、募集は11月1日から1月31日とします。ご注意ください。

申請書は、学会ホームページからダウンロードできます(<http://www.soc.nacsis.ac.jp/zsj/index-j.html>)。

(社)日本動物学会安増基金募集要項

- 1 (社)日本動物学会安増基金規定に従って募集を実施する。
- 2 助成対象
海外で開催される学術会議で研究成果を公表する大学院在籍中の学生で本学会会員を対象とする。研究分野は原則として海産動物の生物学の研究とする。
- 3 申請者は、所定の申請書に記入し、正本1部とそのコピー5部、招待状があれば、そのコピー6部を(社)日本動物学会事務局に送付すること。
但し、申請書類は返却しない。
- 3 募集期間 10月1日から12月25日(必着)。
なお、平成12年度に限り、募集は平成12年11月1日から平成13年1月31日(必着)とする。
- 4 選考は安増基金運営委員会において1月中に実施し、選考結果は2月中に通知する。

申請書送付先 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2
東真ビル内 (社)日本動物学会事務局 Tel. 03-3814-5461

平成12年度

(社)日本動物学会第3回理事会議事録

日 時 平成12年9月20日(水) 14時から15時45分
場 所 東京大学・大学院総合文化研究科・教養学部
16号館1F107室 広域科学専攻第1会議室
出 席 理事15名(委任状出席を含む) 監事2名
事務局長1名

議事

定刻にいたり高橋庶務担当理事が、理事(定員17名)の過半数の出席により定款27条第2項の規定を満たしていることを確認し、理事会は成立したことを報告した。星会長より平成12年度第3回理事会の開会宣言があり、星会長が議長となり、議事録署名人に高橋純夫、岡 良隆両理事を推薦し、満場一致で承認された。議事に先立ち星会長から第71回大会準備委員会に対して謝辞があり、それに引き続き挨拶があった。

1. 報告事項

(1) 会長報告

星会長より以下の報告があった。本年末をもって、会長の2年の任期が終了するが、これまでの会員、理事、評議員の皆様のご協力に感謝の意を表したい。本年度から已む無く代議員制に移行しているが、できるだけ速やかに従来の方式に戻していきたい。それについては皆様のご協力を強くお願いしたい。本年10月27・28日に開催の韓国の動物学会(Korean Society of Zoology)主催のシンポジウムに招待をされているので、出席し今後の協力関係について打合わせをする予定である。

(2) 理事報告

(i) 庶務報告

高橋庶務担当理事より以下の報告があった。

- ・会員数 2658名(9月19日現在)
- ・会長選挙を実施した。学会長選挙管理委員会(沼田治委員長、山根明委員、枝松正樹委員)により、6月24日に開票した結果、定款ならびに細則の規定により、次期会長に星 元紀会員、常任理事に浅島誠会員が就任することが決定した。
- ・評議員選挙を各支部において実施し、次期評議員が決定した。
- ・人工海水の開発に努力され動物科学の発展に貢献されたことによりジャマリン・ラボラトリー社長宮田

益忠氏に感謝状を贈呈することが、理事、評議員の審議により承認された。

(ii) 編集担当理事報告

鈴木理事より、学会誌 *Zoological Science* は本年より年間9号の発行に移行したが、編集・発行業務は順調であるとの報告があった。

(iii) 渉外担当理事報告

上村理事より、財団法人バイオインダストリー協会の小冊子作成にあたり、内容の検討について協力した旨の報告があった。第18回(新)国際動物学会の共催学会となっているために、本学会の英文パンフレットを作成した。なお学会代表として佐藤理事が参加した。

(iv) 教育担当理事

浅島理事より、理数系学会教育問題連絡会の活動状況の報告があった。中・高生の学力低下問題の検討や、理工系学生の就職状況の検討が行われる。本第71回大会では中・高生による30件の研究ポスター発表ならびに、教育問題のシンポジウム「21世紀における理科教育の課題」を開催する予定である。

(v) ガイアリスト21担当理事

片倉理事よりガイアリスト21計画を平成13年度の特定期研究(A)での申請準備中であるとの報告があった。

(3) 委員会報告

(i) 動物学推進将来計画検討委員会

窪川理事より、ポストドク問題のアンケートの結果を本大会の会場で展示報告をする予定であること、ならびにシンポジウム「アジアにおける生物学多様性研究の現状」を開催する予定であることが報告された。また、J-Stage 上での学会誌 *Zoological Science* の on-line journal の正式運用が迅速に行われるように、学会として準備対応していくことが報告された。

(ii) 広報委員会

道端理事より、本学会のクレストのデザインを公募中であること、英文パンフレットを作成したこと並びに、本大会において若手研究者国際会議出席費用補助金(江上基金)の沿革について展示する予定であることが報告された。さらに啓蒙書発刊に関して出版社と交渉中であることが報告された。

(4) 日本学術会議報告

星学術会議会員より、第18期の学術会議が発足したこと並びに、第4部の役員分担について報告があった。

今期の動物科学研究連絡委員会は10月から発足するが、従来通り植物科学研究連絡委員会と合同で委員会を開催し、連携を深めていくこと並びに、その他の生命科学の研究連絡委員会とも共同開催できるように努力したい旨が報告された。

(5) 第71回大会準備状況

浅島大会準備委員長より大会参加に関する謝辞があり、予定参加者、講演数、シンポジウムならびに関連集会数の紹介と準備状況について報告があった。また、予稿集の送付の遅れは配達業者の手違いによるものであることが説明された。

(6) 第72回大会準備状況

九州支部藤理事より、第72回大会の準備状況について報告があった。第71回大会と同様にインターネットからの申し込みを受け付ける予定である。また、本大会で用いたインターネット受付のためのコンピュータプログラムを本学会で購入し、次期以降の大会でも利用していくことが了承された。

(7) その他

(i) 第18回(新)国際動物学会議(8月28日から9月2日までアテネで開催)について星会長から報告があった。

(ii) 本学会の学会誌 *Zoological Science* の Medline への掲載について、今後とも努力することが了承された。

審議事項

第1号議案 平成12年度収支決算中間報告についての件
岡会計担当理事より平成12年度の中間決算報告があり、審議の結果、原案通り了承され、評議員会の議事とすることとなった。

第2号議案 平成13年度事業計画案についての件

星会長より平成13年度事業計画案の提案があり、審議の結果、原案通り了承され評議員会の議事とすることとなった。なお、代議員制の解消ならびに、学会の財政状態の改善をはかることを目指し、具体的な諸策を実施していきたい旨の補足説明があった。

第3号議案 平成13年度予算案についての件

岡会計担当理事より、平成13年度予算案が提案され、審議の結果、原案通り了承され、評議員会の議事とすることとなった。

第4号議案 平成13・14年度の理事承認についての件

星会長より、平成13・14年度の理事ならびに監事候

補者が提案され、審議の結果、原案通り承認され評議員会の議事とすることとなった。

第5号議案 会費の改定に関する件

星会長より通常会員の会費を9,000円から11,000円に、学生・研究生会員の会費を6,000円から6,500円に、平成13年度より改定したい旨の提案があった。改定案は審議の結果、可決され、評議員会の議事とすることとなった。

第6号議案 定款細則の変更についての件

高橋庶務担当理事より、定款細則の改定案について提案があった。

(1) 会費改定に関する改訂

(現行)

第3条 この法人の会費及び人会金は次の通りとする。

(1) 通常会員の会費は年額9,000円、但し、大学学部および大学院に在籍する学生・研究生(在学を証明するものを提出)の会費は6,000円、小・中・高等学校教員などの非研究職に在職中の会員が選択できる別枠通常会員は3,500円、年齢満70才以上(本人申告)で会員歴30年以上の会員の会費は4,500円とする。

(改訂案)

第3条 この法人の会費及び人会金は次の通りとする。

(1) 通常会員の会費は年額11,000円、但し、大学学部および大学院に在籍する学生・研究生(在学を証明するものを提出)の会費は6,500円、小・中・高等学校教員などの非研究職に在職中の会員が選択できる別枠通常会員は3,500円、年齢満70才以上(本人申告)で会員歴30年以上の会員の会費は4,500円とする。

(改訂理由)

会費額の改定に伴う細則の改定。

2) 代議員の選出に関する改訂

(現行)

第9条 (1) 代議員の選挙は支部ごとに定員数の連記無記名投票により行い、上位より定員数を当選者とする。

(改訂案)

第9条 (1) 代議員の選挙は支部ごとに定員数の連記無記名投票により行い、上位より定員数を当選者とする。但し、定員が20名を超える場合は、20名連記の無記名投票とすることができる。

(改訂理由)

代議員の選挙を円滑に実施する為に、支部の事情にあ

わせて記名数を変更できるようにするため。

審議の結果、2件とも可決され、評議員会の議事とすることとなった。

第7号議案 第2回社員総会式次第案についての件

高橋庶務担当理事より、第2回社員総会式次第案の提案があり、審議の結果、了承され、評議員会の議事とすることとなった。

第8号議案 安増基金の設立についての件

高橋庶務担当理事より、(社)日本動物学会安増基金の設立ならびに、(社)日本動物学会安増基金規定案および(社)日本動物学会安増基金実施細則案について提案があり、審議の結果、了承され、評議員会の議事とすることとなった。

第9号議案 感謝状贈呈についての件

高橋庶務担当理事より、(社)日本動物学会安増基金設立にあたり、安増千枝子氏からの御寄付に感謝の意を表するために、感謝状を贈呈したい旨の提案があった。審議の結果、了承され、評議員会の議事とすることとなった。

第10号議案 平成13・14年度代議員選挙実施についての件

高橋庶務担当理事より、平成13・14年度代議員選挙実施について提案があり了承され、評議員会の議題とすることとなった。

第11号議案 平成15年度大会開催支部についての件

高橋庶務担当理事より、平成15年度大会開催支部についての提案があり、北海道支部で開催することが了承され、評議員会の議題とすることとなった。

第12号議案 Zoological Science の電子化についての件

岡会計担当理事より、J-Stage 上で学会誌 Zoological Science の電子化の試行運用状況について説明があり、正式運用開始後の公開の形式について検討した。その結果、正式運用は準備が出来次第実施すること、また運用開始後は、会員にはパスワードにより全文の閲覧を可能にするが、非会員も暫定的に開始後の一定期間は(1年以上)全文が閲覧できるようにすることが承認され、評議員会の議事とすることとなった。さらに、Zoological Science のより一層の普及ならびに論文投稿の促進ため、その努力を広報委員会に依頼することが了承された。

上記の決議を明確にするため、定款30条の規定により

議長および議事録署名人において次に署名捺印する。

平成12年 9月20日

社団法人日本動物学会平成12年度第3回理事会において

議長	星 元紀
議事録署名人	高橋純夫
議事録署名人	岡 良隆

平成12年度 (社)日本動物学会第2回評議員会議事録

日 時 平成12年 9月20日(水) 16時から17時30分
場 所 東京大学・大学院総合文化研究科・教養学部
16号館1F126 大学院講義室 A(専攻)
出 席 評議員29名(委任状出席を含む)
会長 常任理事 幹事 7名 監事 1名
事務局長 1名

議事

定刻にいたり高橋庶務担当理事が、評議員(定員31名)の過半数の出席により定款28条第2項の規定を満たしていることを確認し、評議員会は成立したことを報告した。星会長より平成12年度第2回評議員会の開会宣言があった。議長に浅島 誠評議員が推薦され、満場一致で承認された。浅島議長から挨拶があり、議事録署名人に高橋純夫、岡 良隆両理事を推薦し、満場一致で承認された。議事に先立ち星会長から第71回大会準備委員会に対して謝辞があり、それに引き続き挨拶があった。

1. 報告事項

(1) 会長報告

星会長より以下の報告があった。本年度から已む無く代議員制に移行しているが、可及的に速やかに従来の方式に戻していきたい。それについては皆様のご協力を強くお願いしたい、本年10月27・28日に開催の韓国の動物学会(Korean Society of Zoology)主催のシンポジウムに招待されているので、出席し今後の協力関係について打ち合わせをする予定である。

(2) 理事報告

(i) 庶務報告

高橋庶務担当理事より以下の報告があった。

・会員数 2658名(9月19日現在)

- ・会長選挙を実施した。学会長選挙管理委員会(沼田治委員長、山根明委員、枝松正樹委員)により、6月24日に開票した結果、定款ならびに細則の規定により、次期会長に星 元紀会員、常任理事に浅島誠会員が就任することが決定した。
- ・評議員選挙を各支部において実施し、次期評議員が決定した。
- ・人工海水の開発に努力され動物科学の発展に貢献されたことによりジャマリン・ラボラトリー社長宮田益忠氏に感謝状を贈呈することが、理事、評議員の審議により承認された。

(ii) 編集担当理事報告

鈴木理事より、本年より年間9号の発行になったが、編集・発行業務は順調であるとの報告があった。

(iii) 渉外担当理事報告

上村理事より、財団法人パイオインダストリー協会の小冊子作成にあたり、内容の検討について協力した旨の報告があった。第18回(新)国際動物学会の共催学会となるために本学会の英文パンフレットを作成した。なお、同大会には学会代表として佐藤理事が参加した。

(iv) 教育担当理事報告

浅島理事より、理数系学会教育問題連絡会の活動状況の報告があった。中・高生の学力低下問題の検討や、理工系学生の就職状況の検討が行われる。本大会では中・高生の30件の研究のポスター発表ならびに、教育問題のシンポジウム「21世紀における理科教育の課題」を開催する予定である。

(v) ガイアリスト21担当理事報告

片倉理事よりガイアリスト21計画を平成13年度の特定研究(A)での申請準備中であることが報告された。また2001年より苫小牧地区でのパイロットプロジェクトが開始される。日本動物分類学関連学会連合と共催でシンポジウムを開催する計画である。

(3) 委員会報告

(i) 動物学推進将来計画検討委員会

窪川理事より、科研費審査委員候補者予備グループの分野により、人数に偏りがあり是正が必要があること、ポストドク問題のアンケートの結果を本大会の会場で展示報告をする予定であること、ならびにシンポジウム「アジアにおける生物学多様性研究の現状」を開催する予定であることが報告された。また、J-Stage 上での学会誌 Zoological Science の

On-line journal の正式運用が迅速に行われるように学会として準備対応していくことが報告された。

(ii) 広報委員会

道端理事より、本学会のクレストのデザインを公募中であること、英文パンフレットを作成したこと並びに、本大会において若手研究者国際会議出席費用補助金（江上基金）の沿革について展示する予定であることが報告された。さらに啓蒙書発刊に関して出版者と交渉中であることが報告された。

(4) 日本学術会議報告

星学術会議会員より、第18期の学術会議が発足したこと並びに、第4部の役員分担について報告があった。今期の動物科学研究連絡委員会は10月から発足するが、従来通り植物科学研究連絡委員会と合同で委員会を開催し連携を深めていくこと並びに、その他の生命科学の研究連絡委員会とも共同開催できるように努力したい旨が報告された。

(5) 第71回大会準備状況

浅島大会準備委員長より大会参加に關しての謝辞があり、予定参加者、講演数、シンポジウムならびに関連集会数の紹介と準備状況について報告があった。また、予稿集の送付の遅れは配達業者の手違いによるものであることが説明された。

(6) 第72回大会準備状況

九州支部簾理事より、第72回大会の準備状況について報告があった。第71回大会と同様にインターネットからの申し込みを受け付ける予定である。また、本大会で用いたインターネット受付のためのコンピュータプログラムを学会で購入し、次期以降の大会でも利用していくことが了承された。

(7) その他

(i) 第18回（新）国際動物学会議（8月28日から9月2日までアテネで開催）について星会長から報告があった。

(ii) 本学会の学会誌 Zoological Science の Medline への掲載について今後とも努力することが了承された。

審議事項

第1号議案 平成12年度収支決算中間報告についての件
岡会計担当理事より平成12年度の中間決算報告があり、審議の結果、原案通り了承され、総会の議事とすることとなった。

第2号議案 平成13年度事業計画案についての件

星会長より平成13年度事業計画案の提案があり、審議の結果、原案通り了承され、総会の議事とすることとなった。

第3号議案 平成13年度予算案についての件

岡会計担当理事より、平成13年度予算案が提案され、審議の結果、原案通り了承され、総会の議事とすることとなった。なお、学会誌 Zoological Science は平成13年度は9号で発行することが確認された。

第4号議案 平成13・14年度の理事承認についての件

星会長より、平成13・14年度の理事ならびに監事候補者が提案され、審議の結果、原案通り承認され総会の議事とすることとなった。但し、任期は平成13年1月1日から平成14年12月31日とする。

第5号議案 会費の改定に関する件

星会長より通常会員の会費を9,000円から11,000円に、学生・研究生会員の会費を6,000円から6,500円に、平成13年度より改定したい旨の提案があった。

（提案理由）近年、学会の財政事情が急速に悪化していたが、会員の皆様の協力と、事務局の様々な努力により、本年度の決算では、赤字額は平成11年度の赤字額の5分の1程度に圧縮できる見通しである。また、学会誌 Zoological Science は年間9号化し、On line journal の正式運用も予定され、様々な会員サービスも充実させてきた。学会の事業拡大が極めて必要とされる時期でもあり、現状では累積赤字を減額することは極めて困難である。10年以上にわたり会費の据え置きに努力してきたが、累積赤字を解消し、健全な財政基盤を構築するために、会員の負担を増すことになり大変に心苦しいが、会費を改定することを提案する。

改定案は審議の結果、可決され、総会の議事とすることとなった。

第6号議案 定款細則の変更についての件

高橋庶務担当理事より、定款細則の改定案について提案があった。

(1) 会費改定に関する改訂

(現行)

第3条 この法人の会費及び人会金は次の通りとする。

(1) 通常会員の会費は年額9,000円、但し、大学学部および大学院に在籍する学生・研究生（在学を証明するものを提出）の会費は6,000円、小・中・高等学校教員などの非研究職に在職中の会員が選択できる別枠通常会員は3,500円、年齢満70才以上（本人申告）で会員歴30年以上の会員の会費は4,500円とする。

(改訂案)

第3条 この法人の会費及び人会金は次の通りとする。

(1) 通常会員の会費は年額11,000円、但し、大学学部および大学院に在籍する学生・研究生(在学を証明するものを提出)の会費は6,500円、小・中・高等学校教員などの非研究職に在職中の会員が選択できる別枠通常会員は3,500円、年齢満70才以上(本人申告)で会員歴30年以上の会員の会費は4,500円とする。

(改訂理由)

会費額の改定に伴う細則の改定。

2) 代議員の選出に関する改訂

(現行)

第9条 (1) 代議員の選挙は支部ごとに定員数の連記無記名投票により行い、上位より定員数を当選者とする。

(改訂案)

第9条 (1) 代議員の選挙は支部ごとに定員数の連記無記名投票により行い、上位より定員数を当選者とする。但し、定員が20名を超える場合は、20名連記の無記名投票とすることができる。

(改訂理由)

代議員の選挙を円滑に実施する為に、支部の事情にあわせて記名数を変更できるようにするため。

審議の結果、2件とも可決され、総会の議事とすることとなった。

第7号議案 第2回社員総会式次第案についての件

高橋庶務担当理事より、第2回社員総会式次第案の提案があり、審議の結果、了承された。

第8号議案 安増基金の設立についての件

高橋庶務担当理事より、(社)日本動物学会安増基金の設立ならびに、(社)日本動物学会安増基金規定案および(社)日本動物学会安増基金実施細則案について提案があり、審議の結果、了承され、総会の議事とすることとなった。また、本基金が総会で成立後速やかに事業を開始させるために、あらかじめ今回の本評議員会で安増基金運営委員会委員を選出する事が了承された。ついで、加藤秀生、佐藤矩行、嶋田 拓、鈴木範男、星 元紀の各会員が選出された(敬称五十音順)。委員長は委員の互選により後日決定されることとなった。

第9号議案 感謝状贈呈についての件

高橋庶務担当理事より、(社)日本動物学会安増基金

設立にあたり、安増千枝子氏からの御寄付に感謝の意を表するために、感謝状を贈呈したい旨の提案があった。審議の結果、了承された。

第10号議案 平成13・14年度代議員選挙実施についての件

高橋庶務担当理事より、平成13・14年度代議員選挙実施について提案があり了承された。

第11号議案 平成15年度大会開催支部についての件

高橋庶務担当理事より、平成15年度大会開催支部についての提案があり、北海道支部で開催することが了承された。

第12号議案 Zoological Science の電子化についての件

岡会計担当理事より J-Stage 上での学会誌 Zoological Science の電子化の試行運用状況について説明があり、正式運用開始後の公開の形式について検討した。その結果、正式運用は準備が出来次第実施すること、また運用開始後は、会員にはパスワードにより全文の閲覧を可能にするが、非会員も暫定的に開始後の一定期間は(1年以上)全文が閲覧できるようにすることが承認された。

上記の決議を明確にするため、定款30条の規定により議長および議事録署名人において次に署名捺印する。

平成12年9月20日

社団法人日本動物学会平成12年度第2回評議員会において

議長	浅島 誠
議事録署名人	高橋純夫
議事録署名人	岡 良隆

平成12年度 社団法人日本動物学会第2回総会議事録

日 時 平成12年9月22日(金) 15時—16時45分

場 所 東京大学・大学院総合文化研究科・教養学部
900番講堂(Q会場)

出 席 社員79名(委任状出席を含む)

定刻にいたり高橋庶務担当理事より、社員(定員101名)の過半数の出席により定款26条第4項の規定を満たし総会が成立したことが報告された。総会の議長である

星会長から開会の宣言があり、司会を関東支部東京大学の石井直方会員にお願いしたい旨はかられ、満場一致で承認された。ついで、石井会員から挨拶があり、議事録署名人に高橋純夫、岡 良隆会員が推薦され満場一致で承認された。議事に先立ち、浅島 誠第71回大会委員長から挨拶があった。星会長から、第71回大会に参加した会員への謝辞があり、ついで浅島大会委員長ならびに大会委員会への謝辞があり、つづいて会長挨拶があった。第72回大会開催予定地を代表して福岡女子大学小泉 修会員から挨拶があった。引き続き、星議長、石井司会のもとに議事にはいった。

議事

1. 報告事項

(1) 会長報告

星会長より以下の報告があった。本年末をもって、会長の2年の任期が終了するが、これまでの会員の皆様のご協力に感謝の意を表する。本年度から已む無く代議員制に移行しているが、できるだけ早く従来の方式に戻していきたい。それについては皆様のご協力を強くお願いしたい。本年8月28日から9月2日までアテネで第18回(新)国際動物学会議が開催され、学会代表として佐藤理事が参加したが、今後の開催についての議論は無かった。本年10月27・28日に開催の韓国の動物学会(Korean Society of Zoology)主催のシンポジウムに招待されているので、出席し今後の協力関係について打ち合わせをする予定である。本学会の学会誌 Zoological Science は、学会の最重要事業の一つであり、鈴木編集主幹ならびに編集委員会の努力により年9号化されたが、最終的には月刊にしていきたい。

(2) 理事報告

(i) 庶務報告

高橋庶務担当理事より以下の報告があった。会員数は2658名(9月19日現在)である。会長選挙を実施し、学会長選挙管理委員会(沼田 治委員長、山根 明委員、枝松正樹委員)により、6月24日に開票した結果、定款ならびに細則の規定により、次期会長に星 元紀会員、常任理事に浅島 誠会員が就任することが決定した。8月に評議員選挙を各支部において実施し、次期評議員が決定した。J-Stage 上で学会誌 Zoological Science の電子化の試行運用中であるが、正式運用開始後の公開の形式について検討した。その結果、正式運用は準備が出来次第実施すること、また運用開始後は、会員にはパスワ

ードにより全文の閲覧を可能にすることが決定した。非会員も暫定的に開始後の一定期間は(1年以上)、Zoological Science の全文が閲覧できる方式にすることが、総会で提案され、承認された。

(ii) 編集担当理事報告

鈴木編集担当理事より、学会誌 Zoological Science の編集状況等について以下の報告があった。本年より9号化しているが、順調に編集作業ならびに発行が進んでいる。現在129論文の投稿があり、昨年度並であり月刊化も可能である。全般的な採択率は73%で、一般投稿のみの採択率は71%である。Zoological Science の On-line journal 化の準備中であり、将来は投稿も電子化できるようにしていきたい。

(3) 日本学会会議報告

星学会会議会員より、第18期学会会議が発足したこと並びに、第4部の役員分担について報告があった。今期の動物科学研究連絡委員会は10月から発足するが、従来通り植物科学研究連絡委員会と合同で委員会を開催し連携を深めていくこと並びに、その他の生命科学の研究連絡委員会とも共同開催できるように努力したい旨が報告された。

2. 審議事項

第1号議案 平成12年度収支決算中間報告についての件
岡會計担当理事から、平成12年度の中間決算報告があり、審議の結果原案通り可決された。

第2号議案 平成13年度事業計画案についての件
星会長より平成13年度事業計画案の提案があり、審議の結果、原案通り可決された。

平成13年度(社)日本動物学会事業計画

1. 学術集会の開催

第72回大会 九州支部 九州産業大学

2. 全国7支部における支部大会およびシンポジウムの開催

3. 動物学の普及

4. 学会誌、図書の刊行

Zoological Science の発行 第18巻、生物科学ニュースの発行、動物科学関連図書の刊行

5. 動物学研究業績の表彰と研究の奨励

日本動物学会賞、日本動物学会奨励賞、ZOOLOGICAL SCIENCE AWARD(論文賞)

若手研究者の国際会議出席への補助

安増基金

6. 生物科学学会連合の事業推進

7. 研究および調査

- 1) 動物学資料保存に関する調査
- 2) 将来の動物学の在り方に関する調査
- 3) 生物教育用語の検討
- 4) ガイアリスト21
- 5) 研究用動物提供
- 6) 実験動物取り扱いに関する指針の検討
- 7) 国際動物分類命名規約の翻訳・出版への協力

第3号議案 平成13年度予算案についての件

岡会計担当理事より、平成13年度予算案が提案され、審議の結果、原案通り可決された。

第4号議案 平成13・14年度の理事承認についての件

星会長から、平成13・14年度の理事・監事の提案をしたい旨発現があり、指名により高橋庶務担当理事が候補者名簿を説明した。審議の結果、原案通り可決された。但し、任期は平成13年1月1日から平成14年12月31日とする。終わりに、星会長から今年度をもって退任する評議員、理事、監事に謝辞があった。

(社)日本動物学会 平成13年・14年度理事・監事

会 長(理事長)	星 元紀
常任理事	浅島 誠
庶 務	吉国 通庸
会 計	岡 良隆
図 書	松野 煒
広 報	大島 範子
渉 外	八杉 貞雄
編 集	鈴木 範男
将来計画	窪川かおる
教 育	松田 良一
ガイアリスト21計画	片倉 晴雄
基盤検討	宮田 隆
北海道支部	馬渡 峻輔
東北支部	鬼武 一夫
関東支部	(大島範子・窪川かおる・八杉貞雄)
中部支部	長濱 嘉孝
近畿支部	佐藤 矩行
中・四国支部	吉里 勝利
九州支部	籾 義博
監 事	丸山 工作・山口 恒夫

なお、これに伴い、高橋純夫、上村慎治、道端 齊、浦野明央、西川輝昭、高木由臣、嶋田 拓の各理事および毛利秀雄監事は本年末をもって、任期満了により退任する。

第5号議案 会費改定に関する件

星会長より通常会員の会費を9,000円から11,000円に、学生・研究生会員の会費を6,000円から6,500円に、平成13年度より改定したい旨の提案があった。

(提案理由) 近年、学会の財政事情が急速に悪化していたが、会員の皆様の協力と、事務局の様々な努力により、本年度の決算では、赤字額は平成11年度の赤字額の5分の1程度に圧縮できる見通しである。また、学会誌 Zoological Science は年間9号化し、On line journal の正式運用も予定され、様々な会員サービスも充実させてきた。学会の事業拡大が極めて必要とされる時期でもあり、現状では累積赤字を減額することは極めて困難である。10年以上にわたり会費の据え置きに努力してきたが、累積赤字を解消し、健全な財政基盤を構築するために、会員の負担を増すことになり大変に心苦しいが、会費を改定することを提案する。

改定案は審議の結果、出席社員の3分の2以上の賛成があり、可決された。

第6号議案 定款細則の変更についての件

高橋庶務担当理事より、定款細則の改定案について提案があった。

(1) 会費改定に関する改訂

(現行)

第3条 この法人の会費及び人会金は次の通りとする。

(1) 通常会員の会費は年額9,000円、但し、大学学部および大学院に在籍する学生・研究生(在学を証明するものを提出)の会費は6,000円、小・中・高等学校教員などの非研究職に在職中の会員が選択できる別枠通常会員は3,500円、年齢満70才以上(本人申告)で会員歴30年以上の会員の会費は4,500円とする。

(改訂案)

第3条 この法人の会費及び人会金は次の通りとする。

(1) 通常会員の会費は年額11,000円、但し、大学学部および大学院に在籍する学生・研究生(在学を証明するものを提出)の会費は6,500円、小・中・高等学校教員などの非研究職に在職中の会員が選択できる別枠通常会員は3,500円、年齢満70才以上(本人申告)で会員歴30年以上の会員の会費は4,500円とする。

(改訂理由)

会費額の改定に伴う細則の改定。

2) 代議員の選出に関する改訂

(現行)

第9条 (1) 代議員の選挙は支部ごとに定員数の連記無記名投票により行い、上位より定員数を当選者とする。

(改訂案)

第9条 (1) 代議員の選挙は支部ごとに定員数の連記無記名投票により行い、上位より定員数を当選者とする。但し、定員が20名を超える場合は、20名連記の無記名投票とすることができる。

(改訂理由)

代議員の選挙を円滑に実施する為に、支部の事情にあわせて記名数を変更できるようにするため。

審議の結果、2件とも可決された。

第7号議案 安増基金の設立についての件

高橋庶務担当理事より、(社)日本動物学会安増基金の設立ならびに、(社)日本動物学会安増基金規定案および(社)日本動物学会安増基金実施細則案について提案があり、審議の結果、可決された。

3. 学会賞等の表彰

(1) 平成12年度日本動物学会賞

学会賞等選考委員会桑澤清明委員長から審査の経過ならびに審査結果の報告があり、その後受賞者に星会長から賞状が授与された。

京都大学大学院理学研究科教授 七田芳則会員

「視物質の分子生理学的・分子進化学的研究」

広島大学名誉教授 宗岡洋二郎会員

「生理活性ペプチドの比較神経生物学」

(2) 平成12年度日本動物学会奨励賞

学会賞等選考委員会桑澤清明委員長から審査の経過ならびに審査結果の報告があり、その後受賞者に星会長から賞状が授与された。

琉球大学熱帯生物圏研究センター 太田英利会員

「東アジア・西部オセアニアの熱帯・亜熱帯島嶼における爬虫類の多様性と生物地理」

大阪大学大学院理学研究科 尾崎浩一会員

「視細胞における視物質合成・輸送の研究」

(3) 平成12年度日本動物学会論文賞

鈴木編集担当理事から審査の経過ならびに審査結果の報告があり、その後受賞者に星会長から賞状が授与された。

・服田昌之(国立遺伝研・発生部門) 坂口雅彦(信州

大・教育・理科生物) 小早川義尚(九州大・理・生物) 岸本康之(科技振近藤プロジェクト) 小泉修(福岡女子大・人間環境) 霜島太信(京大・院・理・動物) 後藤太郎(三重大・教育・生物)

・荒川伴子(東海大・院・海洋・海洋生物), 菅野靖彦(三菱生命科学研), 秋山信彦(東海大・海洋・水産), 北野 忠(東海大・院・海洋・水産), 中辻憲夫(京大・再生医科学研・発生分化, 同・院・医), 中辻孝子(東海大・院・海洋・海洋生物)

・前川清人(東大・院・総合文化・広域システム), 北出 理(茨城大・理・地球生命環境), 松本忠夫(東大・院・総合文化・広域システム)

(4) 感謝状の贈呈

(i) 安増千枝子氏(故安増郁夫会員夫人)

(社)日本動物学会安増基金設立に当たり本学会にご寄付を戴いたことに対して、星会長から感謝状を贈呈した。

(ii) 植田一二三氏(元筑波大学付属下田臨海実験センター技官)

動物科学の発展に多大な貢献をされたことに対して、星会長から感謝状を贈呈した。これに先立ち、筑波大学生物科学系教授斎藤建彦会員から植田一二三氏の功績が紹介された。

(iii) 鈴木英雄氏(元東京大学大学院理学系研究科付属臨海実験所技官)

動物科学の発展に多大な貢献をされたことに対して、星会長から感謝状を贈呈した。これに先立ち、東大理学系研究科教授森澤正昭会員から鈴木英雄氏の功績が紹介された。

(iv) 宮田益忠氏(ジャマリン・ラボラトリー社長)

動物科学の発展に多大な貢献をされたことに対して、星会長から感謝状を贈呈した。なお、京大名誉教授米田満樹会員から宮田益忠氏の功績が紹介された。

以上をもって全ての議事を終了し、午後4時45分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、定款30条の規定により議長および議事録署名人において次に署名捺印する。

平成12年9月22日

社団法人日本動物学会平成12年度第2回総会において

議長 星 元紀

議事録署名人 高橋純夫

議事録署名人 岡 良隆

公益信託成茂動物科学振興基金平成12年度助成者は下記の方々に決まりました。

記

助成者名	所属機関	助成金額
1. 太田 秀利	琉球大学	50万円
2. 尾崎 浩一	大阪大学	50万円
3. 古丸 明	三重大学	60万円
4. 吉村 崇	名古屋大学	40万円
5. 片倉 正樹	弘前大学	60万円
6. 東 正明	鳥取大学	40万円
7. 山本 卓	熊本大学	50万円
7名		350万円

公益信託 成茂動物科学振興基金運営委員会
運営委員長 平本 幸男

お知らせ

●国際動物命名規約第4版 日本語版の出版と頒布

「国際動物命名規約第4版 日本語版」が日本動物分類学関連学会連合から出版された。英仏語版の規約は今年の1月1日から発効しているが、この版から動物命名法国際審議会の認定を受けた各国語版も、「英仏語版と同等の効力と意味と権威を有する正文である」ことが規定された。このほど出版された日本語版は、今年の7月17日付で同審議会から正文であるとの認定が得られているので、この版の条文に基づいて命名法上のさまざまな処理が可能になった。日本語版の出版により難解な英仏語版の条文から解放されることは、個々の研究者のストレスを軽減するばかりでなく、動物分類学の普及にも貢献すると思われる。

日本語版はB5判、152頁、クロス張ハードカバーで頒布価格は3000円（送料込）である。価格の半分近くはロイヤリティとして、著作権を持つ動物命名法国際信託に支払われる。大きい財政赤字を抱えている同信託の援助にもなるので、多くの会員が購入して下さるようお願いしたい。

購入を希望される会員は、氏名、送付先住所、電話番号、必要部数と、公費払いをご希望の場合はそれに必要な書類と通数、宛先および日付の記入方法を明記の上、下記へ申し込みください。なお、電子メールをお使いの会員は、ファクスではなく必ず電子メールによりお申し

込みください。

購入申し込みと問い合わせ先：国立科学博物館動物研究部 友国雅章（tomokuni@kahaku.go.jp；Fax. 03-3364-7104）

募金のご協力に感謝いたします。

募金高 2,624,205円(9/30日現在)

9月分

高橋 進 菅原 隆博

会員異動

所属支部番号

1. 北海道, 2. 東北, 3. 関東, 4. 中部, 5. 近畿, 6. 中国・四国
7. 九州, 8. 海外

新入会（10/10現在）

佐久間正幸（5；606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻昆虫生理学分野）/ 長谷川潤二（2；020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込1463番地 岩手県立盛岡農業高等学校・生物工学科）/ 熊谷聖秀（4；長野県下伊那郡売木村2656 売木中学校）/ 池田篤史（3；埼玉大学理学部）/ 武田正利（3；新潟市五十嵐2の町8050 新潟大学理学部生物学科）/ 大矢環（1；札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻行動知能）/ 松原未央子（4；富山市五福3190 富山大学理学部生物学科）/ 千村貴子（4；富山市五福3190 富山大学理学部生物学科）/ 秋山-小田康子（5；京都市下京区中堂寺南町 京都リサーチパーク 月田細胞軸プロジェクト 京都大学医学部分子細胞情報）/ 佐々木隆広（2；山形市小白川町1-4-12 山形大学理工学研究科生物学専攻）/ ノー瀬純子（7；福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学農学部畜産学科動物学教室）/ 張 万里（7；福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学農学部畜産学科動物学教室）/ 中畑新吾（1；060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻生体情報分子学1）/ 鶴頭理恵（6；739-8526 東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院理学研究科生物科学専攻動物科学講座発生生物学研究室）/ 小谷香織（6；739-8526 東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院理学研究科生物科学専攻動物科学講座発生生物学研究室）/ 高久康春（2；980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1 SKK 棟 東北大学大学院情報科学研究科・情報生物学講座）/ 見澤康充（3；170-0013 豊島区東池袋2-23-2 株式会社建設環境研究所技術五部）/ 勝野志保（3；153-8902 目黒区駒場3-8-115号館 浅島研究室314 東京大学大学院総合文化研究科生命環境科学系浅島研究室）/ 中嶋明子（6；739-0046 広島県東広島市鏡山三丁目10-32 広島県産業科学技術研究所広島県組織再生プロジェクト）/ 有賀宏道（4；389-0111 長野県軽井沢町長倉2454 長野県軽井沢町立軽井沢中学校）/ 佐藤由紀子（3；192-0367 東京都八王子市南大沢1-1 東京都立大学理学研究科生物科学専攻発生制御研究室）/ 平津（毛利）紫乃（5；606-01 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院工学研究科環境工学専攻水環境研究室）/ 岸本忠行（1；060-0810 北海道札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学理学研究科生物科学専攻行動

(Z - 104)

知能学講座) / 津田純一 (5 ; 560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16 大阪大学理学研究科宇宙気球科学科徳永研究室) / 土門直樹 (2 ; 983-0013 宮城県仙台市宮城野区字葦畔140番 エヌエス環境株式会社仙台支店技術部) / 石川和宏 (3 ; 158-0097 東京都世田谷区用賀2丁目32-1 株式会社パスコ総合環境センター環境技術部技術一課)

支部・所属変更 (10 / 10現在)

中田和人 (3 ; 305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学生物科学系) / 土原和子 (5 ; 560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-1 大阪大学大学院理学研究科徳永研究室) / 中江裕樹 (3 → 3 ; 210 川越市南台1-3-1 株式会社日立製作所 ライフサイエンス推進事業部) / 忽那純子 (5 ; 京都市左京区聖護院川原町53 京都大学再生医科学研究所発生分化研究室) / 川村麻由 (3 ; 横浜市港北区日吉3-14-1 矢上校舎 新棟 4F 慶応義塾大学 理工学部 化学科発

生生殖学講座 星研究室) / 佐藤陽子 (3 → 3 ; 160 川崎市宮前区菅生2-16-1 聖マリアンナ医科大学泌尿器科) / 林 しん治 (3 → 3 ; 183 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学理学部機能科学科解剖発生学研究室) / 陳 賜隆 (7 ; 606-01 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 琉球大学熱帯生物圏センター太田研究室動物学教室) / 畠山正統 (5 → 3 ; 305-8634 つくば市大わし1-2 農林水産省蚕糸・昆虫農業技術研究所遺伝育種部発生分化研究室) / 高橋弘樹 (1 → 4 ; 606 岡崎市明大寺町字西郷中38 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所発生生物学研究系分発生研究室)

逝去

会員 星野善一郎氏が逝去されました。ここに謹んで深く哀悼の意を表します。

(社)日本動物学会関東支部ニュース

(<http://www.soc.nacsis.ac.jp/zsj/sibu/kantou/kantou.html>)

2000年12月 №85

● 日本動物学会関東支部大会のお知らせ
(第1報)

日本動物学会関東支部大会が下記のとおり開催されます。参加をご希望の方は、以下の要領でお申し込みください。

日 時：平成13年3月30日(金) 12時30分～17時30分
一般発表(ポスターのみ；横100cm，縦150cm)
総会
シンポジウム

引き続き懇親会(17時30分～19時)を予定しています。

会 場：東邦大学習志野キャンパス(船橋市三山2-2-1)
JR 総武線 津田沼駅下車，バス15分

参加費：一般800円，学生500円(当日会場で徴収)

懇親会費：2000円(当日会場で徴収)

参加申込締切：平成13年2月17日(土)

E-mail，郵便または FAX

演題，発表者(所属)，要旨(約250字)

申し込み先：〒274-8510 船橋市三山2-2-1

東邦大学理学部動物生理学教室内

日本動物学会関東支部大会準備委員会

TEL 047-472-7512, 5046

FAX 047-475-1855

E-mail sugimoto@biomol.sci.toho-u.ac.jp

なお，生物科学ニュース2月号の「ひろば」にも第2報を掲載しますので，必ずご覧ください。